

せせらぎ

令和7年度版



三島市青少年相談室 室長(生涯学習課長) 沼上 勝一

今年の大きなニュースと言えば、やはり20年ぶりに日本で開催されている2025年日本国際博覧会「大阪・関西万博」ではないでしょうか。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、158の国や地域と7つの国際機関のほか、自治体や民間企業が参加し、184日間に渡って開催されています。三島市も「古き良き、江戸時代へタイムスリップ」を企画テーマに、LOCALJAPAN 展へブースを出展、万博を盛り上げました。

連日、万博に関する情報番組が放映され、それらを見ながらこれからの明るい未来を想像する一方で、ふと視線を下げてみると、そこには未来を生きていく子どもたちが目の前にたくさんいることに気がきます。そんな子どもたちが、夢を描き、「こんなことをやってみたい!」と目を輝かせながら生活を送っていけるよう、支援していきたいと考えています。

さて、青少年相談室・ふれあい教室では、悩みを抱える子どもたちとその保護者に寄り添った相談の場と、学校復帰及び社会的自立に向けた支援の場の提供を継続して行っています。目まぐるしく環境が変化する時代ではありますが、「青少年相談室」と「ふれあい教室」は、皆様のセーフティーネットの一翼になれば幸いです。

青少年相談室・ふれあい教室を知っていますか？

三島市青少年相談室は、市民生涯学習センター2階にあります。当相談室では、「青少年相談活動」や「補導活動」を中心に、青少年の健全育成に関する様々な活動を行っています。

三島市ふれあい教室(教育支援センター)は、同センター3階にあります。ここでは、さまざまな理由によって学校に通うことのできない小中学生に対し、学校復帰と社会的自立に向けた支援の場を提供しています。



青少年相談室 開室の時間 ～ちいさな心配事でもご遠慮なく～

面接相談 (受付時間) 火曜日～金曜日 9:00～16:00

(事前に電話で面接の予約をお願いします。)

電話相談 (受付時間) 火曜日～金曜日 9:00～16:00

土曜日 9:00～11:00

(いずれも、日曜日・月曜日・祝日・年末年始は休業)

右記QRコードから24時間電子申請で受付を行っています。

三島市大宮町1-8-38 三島市民生涯学習センター2階

電話 055-983-0886



電子申請入口



【青少年相談室について】

Q. だれが相談できるの？

A. 幼児からおおむね25歳までの方やその保護者の方が相談できます。



Q. どのような相談できるの？

A. 学校のこと（学校に行く気になれない、授業についていけない等）

家庭のこと（子どもへの接し方がわからない、親に相談できない等）

友達のこと（友達とけんかをしてしまう、友達が少ない等）

☆ その他、どこに相談していいかわからないこと、何でも御相談ください。お話を聞いた上で、必要に応じて専門の窓口につながるように支援いたします。

Q. 相談方法は？

A. 開室時間内（9時から16時まで）に青少年相談室にお電話（055-983-0886）ください。相談員につながりますので、相談したいことをお話してください。匿名でも構いません。

A. 面接相談を希望される場合は、御都合の良い日時をお電話の中でお知らせください。

また、生涯学習センターに来ることが困難な場合は、中郷文化プラザ・北上文化プラザでも面接相談ができますので、併せて御相談ください。

※ 開室時間内にお電話することが難しい場合やお電話が苦手な方は、電子申請受付窓口がありますので、右記QRコードからお申込みください。

※ また、時間外でお急ぎの場合は、文部科学省「24時間子供SOSダイヤル」0120-0-78310 がございますので、まずはそちらへ御相談ください。



電子申請窓口

Q. 相談した内容が漏れることはないのか。

A. 御相談いただいた内容・秘密は厳守いたします。青少年相談室・ふれあい教室には、専門の相談員・指導員が8名在籍しておりますので、気軽に御相談ください。

【2 ふれあい教室について】

Q. 何をしているところなの？

A. 様々な理由により学校に通うことが難しい市内在住の小中学生に対し、学校、家庭に続く「第3の居場所」になるよう、安心して過ごすことのできる場の提供を行っています。



子どもたちの心の安定を図るため、対面での関わりを大切にしています。加えて、GIGA スクール構想により市から貸与されたタブレット端末を用い、コミュニケーション（チャット形式、ビデオ会議形式等）をより密に図ることで、ふれあい教室がより身近な場所になるように努めています。

ふれあい教室に継続して通う子どもたちは、自学自習を基本に、個に応じた学習を行っています。また、体を動かすことも大切ですので、指導員と一緒に運動をしたり、屋外へ散策に出掛けたり、農園・地域花壇での作業を行ったりすることもあります。

